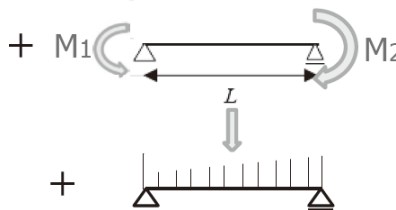
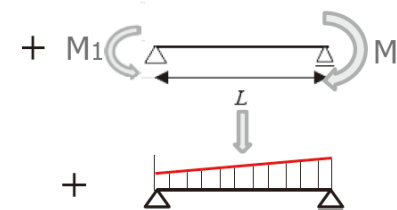
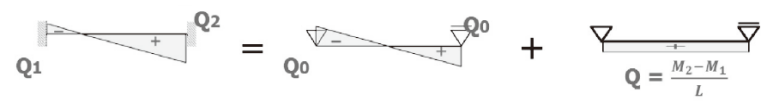
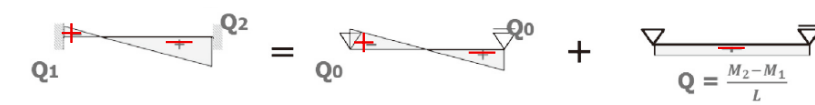


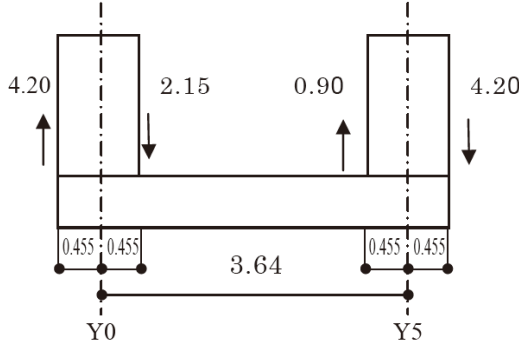
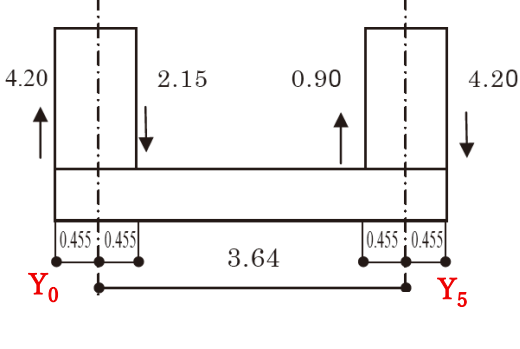
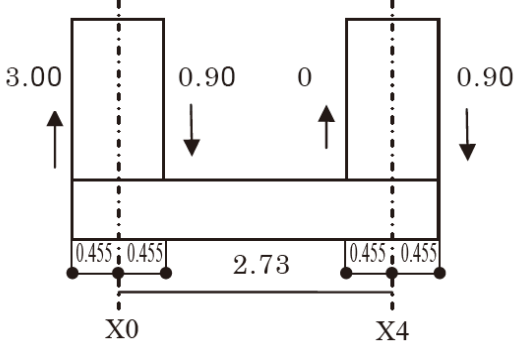
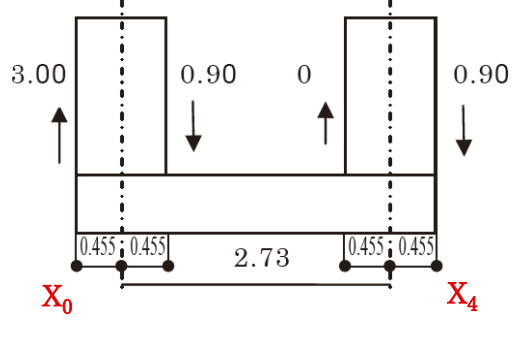
「ひとりで学べる木造住宅基礎の構造設計演習帳」 第1版1刷 正誤表

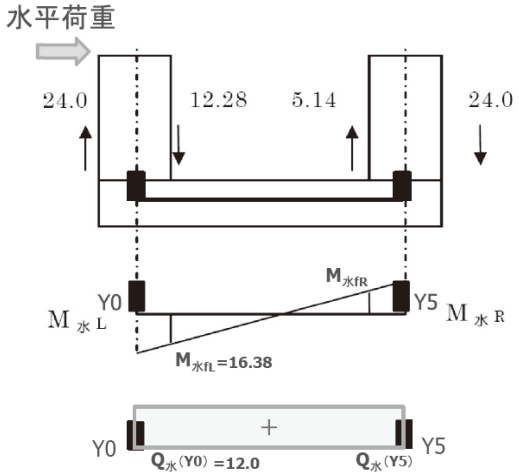
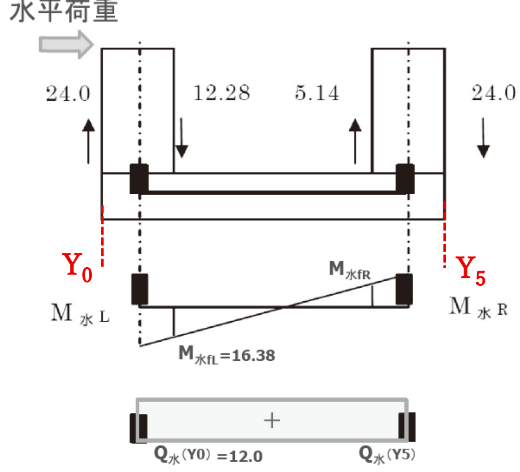
本書に誤り等がありましたので、以下に訂正しお詫び申し上げます。

2026.08.24

該当箇所		誤	正
頁	行・項目		
32	コーヒーブレイク 上から3行目	下限値	上限値
	コーヒーブレイク 上から5行目	手動式	自動式
	コーヒーブレイク 上から7行目	しかし、より大きな換算N値を採用するような危険側の使い分けは避け、基礎と地盤の安全性を確保できるように設計する必要があります。	しかし、自動式のSWS試験結果から稲田式を適用した基礎設計の実績が多数あることから、どちらの式を使用すべきかという優劣はありません。ただし、より大きな換算N値を採用するような危険側の使い分けは避け、基礎と地盤の安全性を確保できるように設計する必要があります。
41	<参考> 上から12行目	$Cc=W_L$ $Cc=0.01 W_L$	$Cc=0.01 W_L$
42	図5.3		
53	上から12行目	l_e	t_e
59	上から 3行目	状態Bの応分	状態Bの応力

該当箇所		誤	正
頁	行・項目		
60	モーメント図 (右図)		
77	上から8行目	最大接地圧	有効接地圧
79	下から7行目	最大接地圧	有効接地圧
	下から6行目	①接地圧の検討	①偏心距離の検討
95	L_x 方向端部 (式 a_t の分母)	196×99.75	195×99.75
	L_x 方向中央部 (式 a_t の分母)	196×57.75	195×57.75
97	上から13行目	(P.76参照)	(P.81参照)
100	中程 せん断力図 Q_2 の式	 $Q_2 = Q_{\text{内端}} = \frac{1.3C - 0.6C}{l} + Q$	 $Q_2 = Q_{\text{内端}} = \frac{1.3C - 0.6C}{L} + Q_0$
113	上から6行目	表10.6 (P.99)	表10.6 (P.98)
114	上から2行目	表10.6 (P.99)	表10.6 (P.98)
117	下から5行目	単純梁の中央曲げモーメント M_0 (kN・m) $M_0 = M_{0A} + M_{0B} + M_{0C} + M_{0D} - C_D$	単純梁の中央曲げモーメント M_0 (kN・m) $M_0 = M_{0A} + M_{0B} + M_{0C} - M_{0D}$
133	(図番号)	図10.27	図10.28
	(頁番号誤り*)	133	134
134	(頁番号誤り*)	134	135
135	(図番号)	図10.28	図10.27
	(頁番号誤り*)	135	133
* 頁番号誤りに伴い、正しいP133～P135の順をご覧ください。			

該当箇所		誤	正
頁	行・項目		
136	中程 (1) ①N値と引抜き力		
137	中程 (2) ①N値と引抜き力		
140	memo 上から4行目	本書P. 109	本書P. 110
153	上から11行目	$W = W_B \times \gamma_{RC} \times b \times (D - D_f) + \gamma' \times B \times D_f$	$W = W_B + \gamma_{RC} \times b \times (D - D_f) + \gamma' \times B \times D_f$

該当箇所		誤	正
頁	行・項目		
158	上から2行目	ひとりでやってみよう 7	ひとりでやってみよう 8
	(2)水平荷重時の 応力算定		
	(3)短期荷重時の 応力算定 ②せん断力 (kN) 応力図 水平荷重 (右図)		
180	番号146	8.24	-8.24
	番号148	-6.67	6.67
	番号188	220.99	200.99